

# 横浜市立都田西小学校

## 平成28年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校経営中期取組目標

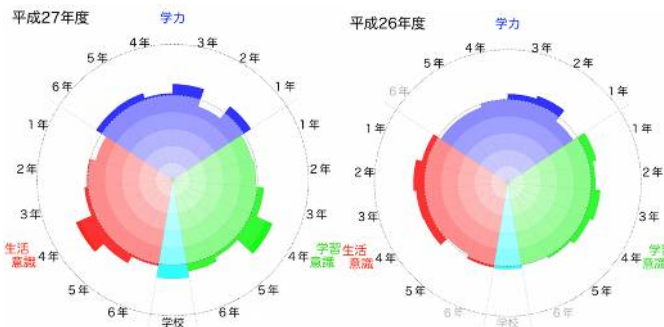
学校経営中期取組目標	
○共に生活する中で、子どもたちが自分の良さや友だちのよさを認められるようにする。(徳・公)	
○豊かな体験活動を通して、心と体をすこやかに育み、心を言葉にのせて伝え合うようにする。 (徳・体・開)	
○子どもたちが夢や願いをもって学びに取り組めるようにすると共に、基礎基本の定着を図る。(知)	

#### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等を育成する取組をいっそう進め、粘り強く学習に取り組む姿勢や、新たな発見を大切にしようとする子を育てる。	重点研究として国語に取り組み、豊かな言語能力を身に付けさせる言語活動の工夫と、その環境づくりをしていく。子どもが語彙を増やすために、系統立てた学年に応じた語彙表を作成し、常時使用できるように一人ひとり持つようにする。語彙表の活用場面を意図的計画的に学習の中に取り入れる。語彙表の掲示の工夫、視覚的に日常振りかえることができるようにする。

### 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

「全国学力・学習状況調査」結果からの分析を加えることもできる。



#### (1) 学力の概要と要因の分析

学力は学年によりばらつきがあるが、市平均を上回る学年が多くなった。学習意識や生活意識もばらつきはあるものの、学習・生活意識に伴い、学力につながっている傾向にある。意識は高いが、うまく学力に結びつかない児童の実態も見られるので、学習効果のある指導を心掛けたい。

#### (2) 教科学習の状況

- 国語科：国語科の意識・学力（基礎・活用）共に市平均を超えたことから、重点研究の成果が表れたことが言える。
- 社会科：意識・学力（基礎・活用）共に大きな伸びが見られた。その要因としては校外学習などの体験的な学習が充実してきたことの成果が表れたと考えられる。
- 算数科：どの教科よりも市平均を大きく上回っている。特に基礎的な学力が伸びたことから、過去の重点研究や少数指導の成果が表れていると言える。
- 理科：過去4年間市平均に到達しなかったのが、昨年初めて市平均を上回った。活用的な学力が大きく伸びたことから、理科支援員を活用し、実感の伴う学習が行われてきたことの成果が表れたと言える。

#### (3) 経年変化の状況の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、この1年で学力が上向いてきている。学習意識調査を見ると学習が好きと感じている児童の割合が平均より上向きになっていることが学力に結びついていると言える。しかしながら、どの教科も1番下の学力層が2割を占めていることから、児童の実態に応じた指導や、基礎・基本をしっかり押さえた指導をしていく必要があると考える。

### 3 平成 28 年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 2 学年

- 国語では、全体的に市平均を上回っている。読み取りを丁寧に行うことや、日常的に生活文を書くなどして、読み書きの指導をする。
- 語彙カードの活用や教師の言葉の補足など、語彙を豊かにするための手立てを工夫する。
- 算数では、数と計算が少し低いため、繰り返し練習して、定着を図れるようにする。

#### 3 学年

- 国語科の授業や日々の宿題で、漢字の練習を継続的に行えるようにしたり、日頃から習った漢字を使うようにしたりして、漢字の読み書きの定着を図る。
- 自分の力で文章を読んで理解する練習を行う。
- 算数科の授業などで、図形を描く活動を十分に行うと共に、それらを構成するものの名称（辺・頂点・直角など）を生活の中でも意識して使うようにする。

#### 4 学年

- 国語科などでの話し合い活動では、反対の意見を出したり、相手の意見を取り入れ、自分の考えを述べたりしながら話し合うように指導する。
- 順序を付けたたり関連付けたたりして考える学習を計画的に位置づける。
- 生活経験を豊かにして量感を身に付けたり測定する活動を多く取り入れて、技能的な習熟が進むよう学習計画を立てていく

#### 5 学年

- 各教科において、目的や必要に応じて文章を書くことができるよう、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合うように指導する。
- 関連付けたたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置づける。

#### 6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにし、表現活動を大切にするとともに話し合い活動をする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化し、あいまいな点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合うように指導する。
- 関連付けたたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。